

&COCO

あんどここ

生活創造空間
にし
NISHI

～アトラシネを目指しま～

第49号 2021年7月20日発行

生活介護事業所「&COCO」所長

小菅 敏朗 より

さかのぼること、令和2年8月12日に1回目の打ち合わせを始め、週に1回の頻度で新規事業所開所に向けた立候補者からなる開所準備メンバーで話し合いを進めてきました。

開所するからには西区でやりたいと場所探しから始めるも、広さ・賃料など難航。

3年とはかかると言われていたところ、これまでの繋がり、ご縁から奇跡的に横浜駅徒歩10分の場所(西区平沼1丁目)に十分な広さのある事業所と出会うことができました♪最初にメンバー間で決めたキーワードは【出会うこと】でした。そして、それは開所を迎えた今でも大事にしていることの1つです。



『&COCO』の由来

【&】には、地域の様々な人と結びつき、組み合わせさせて作り上げていくこと、【あれもこれも】と貪欲に乗り出していく意思、そして「それから」という未来に向けた『わくわく』が込められています。

【COCO】には、【個々の】個性が発揮できる場所、【ここ】から歩み、【ここ】へ帰ってくるという集いの場という意味が込められています。

是非、お立ち寄りください

&COCO は様々な人が行き交う、出会う場にするため

① 地域に向けたギャラリー貸出 (有料)

② カフェ営業

を7月26日(月)から開始します。

シャララカフェのようなたくさんの人が集い、笑顔溢れるあたたかい場所にできるように、メンバーさんと楽しく準備していきたいと思っています。

Instagram を利用し、活動の様子等、随時発信していきますので是非チェックしてみてください。



andcoco_0701

アクセス



〒220-0023
横浜市西区平沼 1-1-12
ダイヤパレス高島町 101
☎ 045-513-9998
FAX 045-872-3785

端午の節供

みんなの
節供

報告



2021年5月14日(金) 16:30~18:00まで
「生活創造空間にし」にて開催しました。

今回も30名定員の人数制限を設けて感染症予防
対策を実施、慎重に慎重を期して行いました。

参加者は大人17名、お子様8名の計25名です。

第一部は、音楽ボランティアグループ『おもちゃのはこ』のコンサートです。

司会者のやさしい語り口で、影絵や歌のプログラムが進行しました。

創意工夫された演出に心打たれたひと時は、沢山のご支持を頂きました。

第二部は、5階食堂で特製弁当の食事。お弁当は、＜たけのご飯＞＜鶏のからあげ＞＜ポテトサラダ＞
＜ブチトマト＞＜デミハンバーグ＞＜プレーンオムレツ＞＜エビフライ＞デザートには＜チョコバナナクレープ＞と、
それぞれはミニサイズながらも、色々なおかずを盛り合わせたボリュームたっぷりの内容でした。

食事中は、飛沫感染防止のため距離間隔を取り、会話を控える事を厳格に守って頂きました。

それでも日頃、様々な制約の中でお過ごしのか、ちよびり日常を離れホッと一息つく様子が伺えました。

昨今の状況下では楽しく会食する事はままありませんが、ご縁あって居合わせた者同士、音楽や食を介した
ゆるやかな繋がりで同じ空間を共にする、何とも心地良い雰囲気でした。

それが、こども食堂から派生した、「みんなの節供」の原形や目的の一部であり、福祉拠点として多様な機能を持つ
「生活創造空間にし」の在り方のひとつだと改めて感じました。

“みんなの節供”もつながりを絶やさぬ様に、ひと安心出来る気持ちの拠所として、しなやかに形を変えながら継続
して行きます。ご参加頂いた皆様と、開催実施に携わって下さった方々のご協力、心より感謝申し上げます。

(ねくさす 桃井)



七夕の節供

2021年7月9日(金)16:30~17:30まで
『生活創造空間にし』で開催しました。

大人23名、お子様2名の計25人の参加です。



参加された方の「コンサートをもう少し長く楽しみたい」というご意見を反映して、音楽ボランティアグループ『おもちゃのはこ』のコンサートを約1時間の拡大バージョンで開催しました。歌や演奏はさることながら、今回はお持ち帰りのお土産をお渡しする場面からお見送りまで素敵な演出で会場は終始和やかな雰囲気…☆彡

感染症の流行で窮屈な思いをしている“現在”だから、ほんの少しでも楽しい気分でも過ごして欲しいという『おもちゃのはこ』メンバーの皆さんのあたたかな想いが溢れていました。

今回、社会状況を鑑み食堂を利用したお弁当の提供は一旦休止。

エヌ・クラブのレトルト食品“ゴロゴロお肉のビーフカレー”を市販のご飯パックとセットにして、コンサートでほっこりした余韻と一緒に、ご自宅にお持ち帰り頂ける形を取りました。

コロナ禍、ウィルスとの共生を模索し続け、2度目の夏を迎えました。

私たちも日々、アップグレードしながら、危機的状況を幾度となく乗り越えて行けるのだと信じ、またいつか大勢で「皆さんとにぎやかに集える日が来ること」を七夕に願います。参加頂いた皆様、開催実施に携わって頂いた皆様には、厚く御礼申し上げます。

次回は、2021年9月10日(金) 重陽の節供、詳細は決まり次第お知らせします♪(ねくさす 桃井)

えんとこの歌

生活創造空間にし 研修報告

毎年恒例の生活創造空間にし研修、今年度のテーマは『障害のある方の住まい/就労を考える』です。各回『グループホーム』『一人暮らし』『入所施設』『特例子会社勤務』など、障害当事者の方の暮らしについて、年5回シリーズで取り上げます。その初回で映画『えんとこの歌』を、コロナウィルス感染症対策を実施しながら上映いたしました。当日は、あいにくの天気でしたが、42名の方にご参加いただきました。ありがとうございました。

映画は脳性麻痺で寝たきりの生活を強いられる遠藤滋さんが主人公のドキュメンタリーです。食事/入浴/排泄/意思疎通などで介助者の支援を要します。ベッド上の生活は35年を過ぎ、障害も進行していく中、遠藤さんは50代後半から短歌を詠むようになり、心の叫びを言葉に託す日々を送ります。そんな彼と介助者たちの心の交流、葛藤を映した映画です。

映画の中で『津久井やまゆり園事件』が取り上げられました。あの事件が、生活に介助者の全面的な支援を要し、且つ意思疎通にも支援が必要な遠藤さんにはどう映ったのか…そうした心の葛藤を短歌にのせて、また介助者とのやり取り、意見交換を通して映したシーンでした。遠藤さんの生活は、常時支援者の見守り/支援が必要な生活です。すると必然、支援する人の確保が課題となり、安定して人を確保するためには、働く人の門戸を広げる、敷居を下げるということが大変重要になります。遠藤さんが主に利用されている『重度訪問介護』という福祉サービスは、数日の研修を受講すればどなたでも資格取得が可能です。つまり門戸が広い、敷居が低いということになるでしょう。

私は、これは多くの方、つまり様々な経歴/経緯/ご事情の方に、障害福祉を知っていただく、携わっていただくということになるでしょうから、ひろい意味で障害福祉の『啓発』にもなり得る大変重要な観点だと思います。しかし一方で、様々な想いのある不特定多数の方が、比較的容易に、極めて密接した個別的支援ができてしまうともいえるでしょう。

そうした中での『やまゆり園事件』。遠藤さんはそうしたことに葛藤を感じたのではないかと、私にはとても印象的なシーンでした。

『生活創造空間にし研修』 第2回目は8月6日(金)17:30~19:30、生活創造空間にし5階食堂で実施いたします。次回は知的障害当事者の方2名にご登壇いただき、それぞれ『グループホームでの生活』『介助付一人暮らし』の生活についてご紹介いたします。事前申込制としております。ホームページ上に掲載されておりますチラシで詳細確認の上、申し込み、ご参加いただけると幸いです。今年度もよろしくお願いいたします。

ねくさす 森 博宣

生活 創造空間 にし から お知らせです。

4月から、ランチタイムコンサートを再開しております。新型コロナウイルスの感染拡大の状況に合わせて、中止・延期等の可能性等もございます。ご協力の程、よろしくお願い致します(下記内容も同様です)。

おもちゃ文庫

貸

館

上記二つの事業については、通常利用とは異なりますが、引き続きご利用できます。
お問合せ、ご予約お待ちしております。



は、9月10日(金)に **ちょうよう せっき 重陽の節供** を開催予定です。

前回の「七夕の節供」より、コンサートの後に食事を伴うイベントではなく、
お土産のお持ち帰りをして頂くスタイルに変更して実施おります。
何卒、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

『もへじ』の新しい生活様式ってナンだ!?

今年度より、この誌面の締め部分を担当しております、“もへじ”です。

今回は今更ながら新しい生活様式について少し思うところ書いてみます。とはいっても、
お堅い話ではなく世の中こんな感じに変化したよねー、みたいな内容で行きたいと思います。

もへじ、実は、夏に1回ぐらいい『野外フェス』にいく事を密かな楽しみにしておりまして、
とはいえ、ここ数年は子供の受験や仕事の忙しさもあり、なかなか参戦できていなかったのです。
ただ、最近はこのコロナ禍の影響で野外フェスもライブ配信が増えまして、
これは一つ勉強と思って、まあそれほど高価でない配信の野外フェスを体験しました。

結論から申しますと、「**気楽で良いけど物足りない**」、といった感じです。
もちろん楽しみ方は人それぞれなのかも知れませんが、もへじはフェス会場までの道中も楽しいですし、
屋台のご飯も、物販の行列も、終わった後の「**明日から仕事かー、嫌だなー**」みたいな感情も込みで
『フェス』だと思っています。

ただ、野外は雨とか降ると本当に大変ですし、暑いから喉が乾いて飲み物買うんですけど、
本気でポカリのペットボトルが500円!とかしますし、
使い道がいまいち見当たらない幅の狭いタオルとかが2000円とか、とにかくお金がかかります。
一方、配信は金銭面では本当にお得!! チケット代は半額から1/3ぐらい、交通費もかからないし、
グッズは通販でも買えますし、画面上ですけど演者の顔とか姿ははっきり見えて楽しいです。

一長一短かと思いますが、ストレスを溜めないように、お財布と相談しながら
新しい生活様式とやらを楽しんでいこうと思う、ひと夏の経験でした。

タイトルは次号までに決めますので楽しみに。

生活創造空間にし URL: <http://www.souzoukuukannishi.org>

【発行・印刷】生活 創造 空間 にし広報委員会 〒220-0055 横浜市西区浜松町 14-40

☎ 045-250-6506 (ガッツ・びーと西) ☎ 045-250-6470 (エヌ・クラブ)

